

エシカルミンの名前に込められた意味

『エシカル消費』とは、自分だけでなく、社会や環境にとってよい消費活動を意味します。代表的なものには、エシカルファッションやエシカルジュエリーがあります。

効率よりも倫理を優先するエシカル業界は、価格的には高くなる傾向があります。『エコ』や『ロハス』といった言葉にくらべて、意味する範囲がひろいこともあり、『エシカル』という言葉の認知度は、極めて低いのが現状です。

「もっとエシカルを身近にしたい。」

みんなのでできる、エシカルなこと。

それが、エシカルミンの名前に込められた意味です。

エシカルミン アプリ の目的

～JOYTRIBUTE(ジョイトリビュート)という新しい価値の提案～

私たちは、日本にうまれたことを誇りに感じています。
震災にあっても暴動を起こさない、世界に誇れる道徳観をもつ国。
これは、子供時代から教育をうけてきた見えないもの、『規範』があるからだと思います。

この『規範』の中にも、時代とともに進化していくべき部分があると考えています。

それは、社会貢献や寄付といった世界にある『陰徳の美』や『自己犠牲の美』です。
どちらも、道徳上、とても尊く美しい価値観です。
ですが、一般のかたに近寄りがたい印象を与えてしまったり、『偽善者』などという批判をうんでしまったり。そのような負の部分も、あるのではないのでしょうか？

社会貢献のおおきなうねりを作っていくには、この『規範の罠』を乗り越える必要があります。

そこで、私たちが考えるのが『JOYTRIBUTE(ジョイトリビュート)』という概念です。
JOY(喜び)+CONTRIBUTE(貢献) をもじった、ユニコムの造語です。

<<今までの寄付>>

- ・市民は、『自己犠牲の美』の規範から、なんらかの損失をもとめられる。
(ものを失う、お金を失う)
- ・その市民の損失が、他者への寄付にかわる。
- ・そして、『陰徳の美』のもと、寄付したことを隠すことを、周囲から求められる。



<<JOYTRIBUTEの寄付>>

- ・市民は、消費者としてのなんらかのメリットを享受する。(JOY)
(プレゼントをもらう、うれしい体験をする)
- ・その結果、寄付が発生する。(TRIBUTE)
- ・市民は、この活動が拡大するために、参加したことの伝搬(シェア)をもとめられる。



このJOYTRIBUTEの価値を現実のものにしていくのが、エシカルミンアプリの目的です。

なぜ、こどもの福祉への寄付なのか？

こどもは、いつの時代も犠牲者に

いつの時代も、社会は、なんらかの構造上の問題をかかえています。
そのひずみは、弱者を虐げるプレッシャーとなり、顕在化します。
残念ながら、弱者として、『こども』がその犠牲になることが少なくありません。

政治のチカラが、空転してしまうことも

子供の貧困対策に、国の予算がわりあてられるのは、良いことだと、私たちは感じています。
残念ながら、それを悪用する人間が、必ずでてきます。
それを防ごうと、制度を複雑化すると、こんどは福祉の現場で、その制度を使いづらくなるという矛盾が生まれます。

それを憂慮してか、内閣府が「子供の未来応援基金」への寄付を募集しました。
こどもの貧困問題は、官民一体、日本全体で取り組んでいこうという志かと推測します。
しかし、その志を共有するのは、難しいようです。
2億円の広報費をかけて、2000万円の寄付しか集まらなかったと、国会で取り上げられていました。(2016年2月)

こどもが元気に育つ国のほうが、ミライは絶対、明るい！

政治論や責任論は、くわしい方々におゆずりして。
親として、大人として、シンプルに考えてみました。

「 こどもが元気に育つ国のほうが、ミライは絶対、明るい！ 」

エシカルミンは、消費者が得をして、寄付がうまれる、新しい社会貢献運動。
その寄付さきは、こどもの福祉が好ましいと考えています。

そして、それを現代にあてはめると、こども食堂への寄付が適切と考えています。

視野をひろく、有効性に配慮しながら

地域性にたいおうし、有効な寄付となるように、社会福祉協議会に相談するなど、
視野をひろくたまちながら、活動していくことが大切だと、私たちは考えています。

地域によっては、こども食堂以外の、こどもに関連する寄付があってもよいと考えています。

なぜ、グルメレポートグランプリなのか？

はじめの一歩として、弊社が所在する、所沢市でのグルメレポートグランプリを開催することにしました。

所沢市に限定したのは、地元経済への貢献をしたいから。
グルメレポートにしたのは、将来、個人飲食店への広告事業をベースに収益化していくための布石として。

そして、楽しく、自分が得するだけで、社会貢献になる…JOYTRIBUTEの価値、エシカルミンの特徴を、みんなに知ってもらいたい。

残念ながら、本キャンペーンは、収益はまったく発生しませんので、寄付にはなりません。
ですが、このキャンペーンからはじまる一連の運動の先に、収益化を見込んでおり、その収益から、こどもの福祉への寄付を予定しています。